

川をつくる

—大和川のつけかえ工事—

2006年9月20日～12月10日

柏原市立歴史資料館

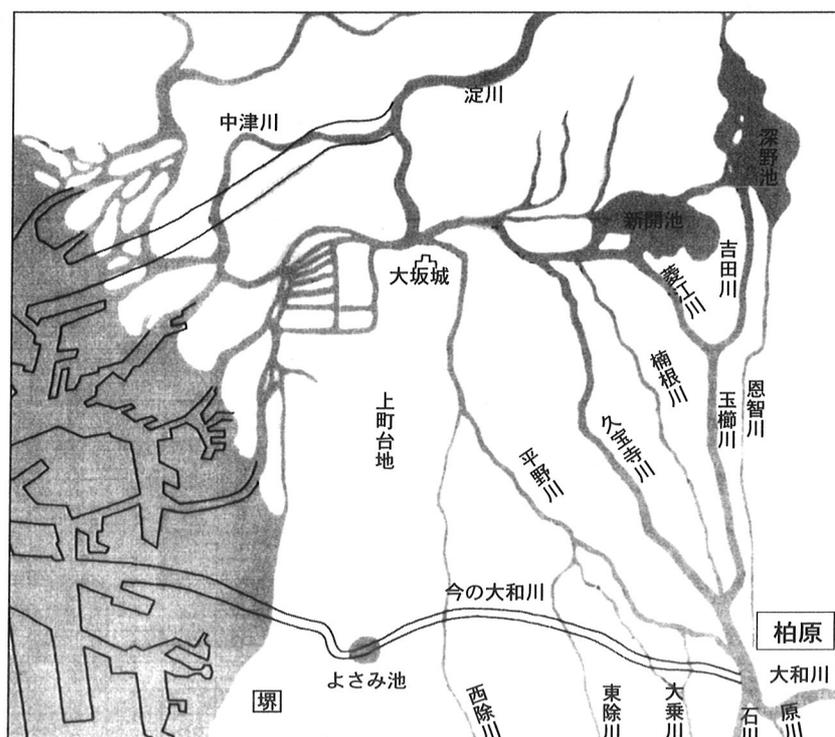
大阪の人たちに昔から親しまれている大和川。汚い川として有名になってしまいましたが、50年ほど前までは、泳ぐこともできるきれいな川でした。その大和川も少しずつきれいになってきていて、鮎が泳ぐ姿を見ることができるようになりました。これからもっときれいにして、昔のようにきれいな川にもどしたいものです。

ところで、この大和川は、今から300年ほど前につけかえられた川なのです。柏原市役所の前から大阪湾まで、たいへんな工事をして新しい川をつくったのです。どうして川をつけかえなければならなかったのでしょうか。どのようにして川をつけかえたのでしょうか。その秘密をさぐってみましょう。

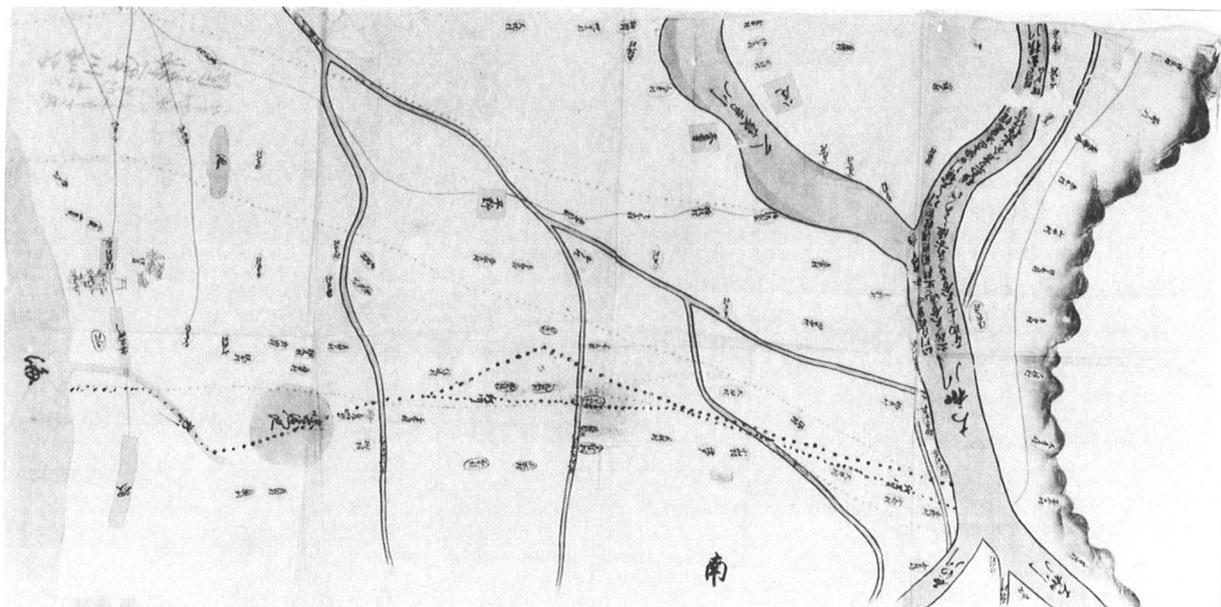
つけかえまでの大和川

つけかえまでの大和川は、久宝寺川（長瀬川）や玉櫛川（玉串川）など数本の川に分かれて流れ、大阪城の北で淀川に流れこんで海に流れていました。しかし、大雨になると水がうまく流れず、あちらこちらで堤防が切れたり、堤防から水があふれたりして洪水をおこしていました。何度もくりかえされる洪水に、食べるものさえなくなって、苦しむ人たちもいました。そして、大和川をつけかえてほしいと願う人たちが増えてきたのです。

しかし、つけかえはなかなか実現しませんでした。それは、つけかえに反対する人たちがたくさんいたからです。反対する理由は、新しい川ができると自分たちの土地がなくなるかもしれない、それまでなかった洪水が起こるようになるかもしれないなどでした。

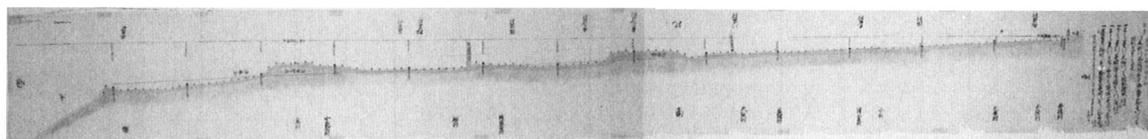


つけかえ前の大和川



しんかわ けいかくかわすじ ひ かくず
新川と計画川筋比較図 (N-060704)

新大和川の位置について、5つの案^{あん しめ}が示されている。天王寺^{てんのうじ}の近くへ流す案もあったことがわかる。



ちけいこうげ
地形高下の図 (N-060705)

つけかえ前の地形を黄色で示し、水平^{すいへい}の線と計画^{けいかく}の川底^{かわぞこ}の線が黒色で書きこまれている。この図から、大和川がほとんど川底^ほを掘らないでつくられていることがわかる。



ていぼう
大和川の堤防をつくる ((財)大阪府文化財センター提供)

2006年冬、八尾市若林町^{やおしわかばやしちょう}で大和川の堤防^{ていぼう}を切って、堤防^{かくにん}のつくりかたを確認するための調査が行われた。その結果、つけかえたときの堤防は計画書^{けいかくしょ}どおりの大きさでつくられていることがわかった。

つけかえ工事

つけかえを求め^{もと}る運動が始まってから50年ほどたって、ようやく宝永元年^{ほうえいがんねん}（1704）につけかえ工事が始まりました。工事は2月に始まり、10月に完成するというスピード工事でした。今の技術^{ぎじゆつ}や機械でも8ヶ月で工事をするのは無理でしょう。こんなに早く工事が完成^{かんせい}した理由は、できるだけ川底を掘らずに川の両側に堤防をつくるだけの工事をして^{りゆう}いることと、分担^{ぶんたん}して競いながら工事をしたためと考えられます。

つけかえたときの堤防^{ていぼう}は、今の堤防よりもかなり小さいものでした。川底^{かわぞこ}を掘り下げるよりも、土を盛^もって堤防をつくるほうが簡単^{かんたん}だったので、できるだけ川底を掘らずに工事で余っている土を積み上げて堤防をつくり、川をつくったのです。これまでに4ヶ所で堤防の発掘調査が行われていて、どのようにして堤防をつくったのかがわかるようになってきました。調査結果からは、土をていねいに盛り上げているところと、雑なつくりかたをしているところがあるのがわかっています。工事で働いていた人たちの姿が目にかぶようです。

堤防^{ていぼう}は、その後何度も修理^{しゅうり}され、少しずつ大きくなって、今の堤防になっています。この堤防が切れてしまうと、大阪は大洪水^{だいこうずい}になります。これは今も昔も変わらないことです。

つけかえたあとの大和川

つけかえ後、もとの大和川には小さい川だけ残して田や畑がつくられました。これを新田^{しんでん}といいますが。新田^{わた}では綿がたくさんつくられ、その綿からつくられた河内木綿^{かわちもめん}は、全国的にも有名になりました。しかし、こんどは水不足^{みずぶそく}でこまるようになったようです。

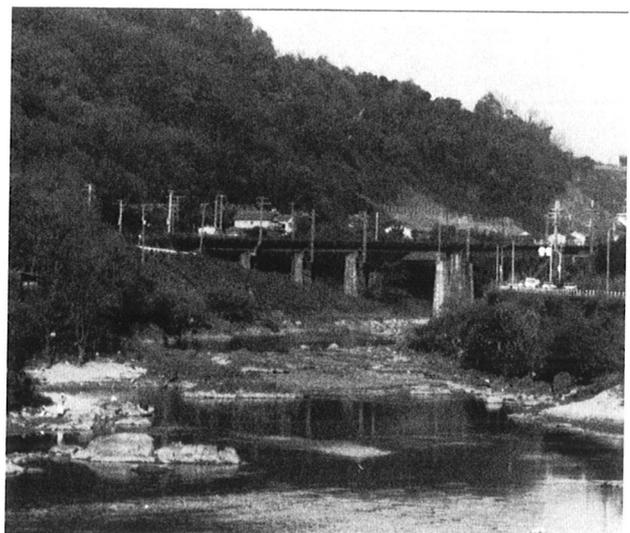
新しい大和川の近くの人たちはどうなったでしょう。大和川のつけかえに反対していた人たちです。新しい川ができて、土地^{とち}を失った人もたくさんいました。大和川の北と南に分かれてしまった村もありました。そして、大和川の南側では、それまでなかった洪水^{こうずい}がおこるようになりました。大和川の堤防^{ていぼう}があるので、水がたまりやすくなってしまったのです。このように、新しい大和川ができて、こまっている人たちもたくさんいたのです。

たくさんの人たちの思いをのせて流れている大和川。みなさんも、昔の人たちがどのような思いで大和川をながめていたのか、想像^{そうぞう}してみてください。

- ・このリーフレットは、2006年9月20日から12月10日まで開催する秋季企画展「川をつくる」に伴って作製したものです。
- ・中甚兵衛関係の展示資料および写真は、中九兵衛氏の所蔵資料です。

柏原市立歴史資料館

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1
TEL 072-976-3430



大阪への入口・亀の瀬